

2023年9月10日(日)14時開演

WINDS CAFE 321 in 原宿

打楽器百花繚乱× 作編曲家白藤淳一氏を迎えて

會田瑞樹 (ヴィブラフォン独奏)

作曲家薮田翔一氏からの白藤淳一氏推薦メッセージ

「アイツの事、推薦出来るところは一つも無いと言っていたと言っておいてください。ほとんどの作曲家は、音符を書く時に世俗的目的を持っています。白藤さんには、それを感じません。ただひたすら愚直に音符を書き続けています。僕は、そんな彼を尊敬します。」(薮田翔一)

Introduction

2015年、薮田翔一さんから紹介したい人がいるので連絡先を交換しても良いかと尋ねられた。承諾すると、見知らぬ番号から電話がかかってきた。白藤淳一と名乗るその男は、岩手県に在住し、作曲や編曲を色々しているので楽譜を見てもらえないかと相談を受けた。その年の暮れに岩手での演奏があったので、お招きすることにした。

岩手県立美術館のロビーに現れた白藤淳一氏は、これまで出会った作曲家の中でもかなりの高身長で、ものすごい勢いで様々なことを話してくれた。屈託無く、まっすぐに音楽への情熱を語る白藤さんの言葉を僕はいっぺんに信じ切ってしまった。この人は良い人な気がする。と。

その日から現在に至るまで、本当に白藤さんには様々なわがまを聞いてもらった。酔っ払って電話することもしばしばあった。読売日本交響楽団でのロジェストヴェンスキー最後の来日公演も共に聞いたし、2022年は京都にも来てもらったり、郡山で川村さんと三人で酒席を囲んだこともあった。まさに、頼れる兄貴のような存在だ。

川村さんから「一人の作曲家をテーマにした会で！」とのオーダーを頂いた時、真っ先に白藤さんに決めた。

白藤淳一という人は、何者なのか。多くの方々に知ってほしいし、彼の人間的な魅力の深さを、改めてみんなで分かち合いたいと考えるに至った。

白藤さん、川村さんと東京でお待ちしています。(會田瑞樹)

1 メヌエット：ト短調（2016/G.F.ヘンデル）

クラヴサン組曲HWV 4 3 4の第4曲メヌエットをピアニストのヴィルヘルム・ケンプがピアノ用に編曲した楽譜を基に編曲。ケンプのピアノの低音が重厚な響きとはまた別の質感を獲得しています。

2 エニグマ変奏曲からニムロッド（2016/E.エルガー）

原曲は管弦楽作品で、その第9変奏「ニムロッド」を編曲。最大声部がそれほど多く無い為ヴィブラフォンでも演奏できるのでは？という予見から編曲しました。

3 イギリス組曲第2番イ短調からサラバンド（2017/J.S.バッハ）

この作品は全6曲で組まれた中の第4曲「サラバンド」を編曲したもので元はチェンバロ用に書かれピアノでも演奏されています。ヴィブラフォンに編曲した結果、個人的にはどこか蠱惑的な印象を得たような気がします。

4 檜の森の中の修道院(2023/白藤淳一最新作)

18世紀にドイツで活躍した画家、カスパー・ダーヴィト・フリードリヒの絵のタイトルをそのままタイトルに引用しています。私はこの絵の中に幽玄な印象と相対するロマンや哀愁もあるような気がしており、それを音楽として形象化しようと試みました。

5 清らかな澄んだ瞳（2016/C.ジェズアルド）

ジェズアルドは後期ルネサンスの作曲家、この作品はマドリガル第4集の1曲目を編曲したもので原曲はソプラノ I & II、アルト、テノール、バス編成の（無伴奏）声楽曲です。人間の声とマレットによる打音は発音の瞬間が異なりますが、それでも原曲の魅力を損なわず新たな（浮遊感のような）質感を再構築することがこの編曲のコンセプトです。

6 宮廷の食卓の為の音楽(2019/白藤淳一作曲)

この作品は架空の宮廷料理人の、とある日曜日の昼食ディナーを作る過程を描いたもので、宮廷に出勤（行進曲）、到着（短調コラール）、調理開始（おどけた舞曲）、料理を運ぶ（ボレロ）、実食（ワルツ）、片付け（長調コラール）、退勤（ギャロップ）という7つのセクションで構成され音楽が進行します。タ

イトルはテレマンの食卓の音楽からの引用ですが、「宮廷の食卓の為の音楽」という言葉の並びから、なぜか食べる側ではなく作る側の音楽を想起してしまい作りました。

7 ルパン三世愛のテーマ (2017/大野雄二)

大野雄二氏がルパン三世の音楽を担当することになったTV第2シリーズのエンディングで使用された楽曲。哀愁漂う曲の質感がヴィブラフォンに合うかもしれないとの予見から編曲しました。

8 ホールニューワールド (2019/A.メンケン)

2019年にディズニー映画「アラジン」が実写化された事をきっかけに編曲。オルゴールのような音響と共に、このようなポピュラー音楽のスタンダードにもヴィブラフォンは十分に対応出来ることを再確認しました。

9 アルルの女から No.16～美しきパースの娘からセレナード(2019/G.ビゼー)
後半のセレナードは「小さな木の実」というタイトルで歌詞が付けられ NHK みんなのうたで放送されていたことを2019年に知りその原曲がビゼーであることを発見し、これもヴィブラフォンでも演奏できるかもな、という事で會田さんに楽譜を見せた所、前半にアルルの女の一節を入れてくれという依頼があり、このようなメドレーになりました。

10 ナオミの夢 (2017/D.クリボシェ/初演)

私自身不勉強な人間で會田さんに依頼されて初めてこの曲の存在を知りました。非常にエモーショナルな音楽と哀愁ある部分の交替が印象的だと思ひまして、それがヴィブラフォン編曲に上手く反映されているか聴いて下さったみなさんの判断にお任せしたく思っております。

11 どどさい節 (2020/岩手県雫石町民謡)

藩政時代宿場町となった雫石町の酒席等で歌われていた民謡で、お隣秋田県大仙市中仙地域で歌われている全国的に有名な「ドンパン節」と旋律はまったく同じものです。

12 あやかしの余韻(2017/白藤淳一作曲)

夢野久作の小説「あやかしの鼓」の粗筋、すなわち正体のわからない恐怖&焦燥感を音楽に置き換え、中心音がわからないというコンセプトで作曲。正確

に言えば中心音は明確ですが、そこに向かう曲の終結が作品タイトルの余韻につながります。

13 ピアノ協奏曲第 23 番イ長調作品 488 から第 2 楽章

(2022/W.A.モーツァルト)

モーツァルトとしてはかなり珍しい嬰へ短調という調性で非常に物悲しい雰囲気印象的な楽章です。ひとつわからないのがこの悲しさは本当の悲しみなのか？例えば芝居の中の演技としての悲しみなのか？この曲を聴くといつも考えてしまいます。

會田瑞樹(ヴィブラフォン)

1988 年宮城県仙台市生まれ。2010 年日本現代音楽協会主催”競楽IX”第二位入賞と同時にデビュー以降、これまでに 300 作品以上の新作初演を手がけ「初演魔」の異名をとる打楽器/ヴィブラフォン奏者。作曲家として 2019 年第 10 回 JFC 作曲賞入選、2021 年リトアニア聖クリストファー国際作曲コンクール LMIC 特別賞受賞。2022 年 2 月には東京都「アートにエールを！」採択事業として初の自作自演個展を開催。10 月には自らが作曲を手掛けた《祭禮 —二台のヴィブラフォンのための協奏曲—》を新田ユリ指揮、京都室内合奏団とともに世界初演。2020 年発売の最新アルバム「いつか聞いたうた ヴィブラフォンで奏でる日本の叙情」は年間最優秀ディスクとなる第 59 回レコードアカデミー賞受賞。ヴィブラフォン、現代作品の魅力を多彩に紹介した成果により令和 2 年度大阪文化祭奨励賞、令和 3 年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。かなっくホールレジデントアーティスト。郡山女子大学短期大学部非常勤講師。

ホームページ・<http://mizukiaita.tabigeinin.com>

白藤淳一(作曲家/編曲家)

岩手県出身。《Parallel Cycle Junction》で第 80 回日本音楽コンクールに入選し頭角を現す。創立 30 周年日本クラリネット協会記念事業「クラリネット作品コンクール」において《痴人の愛》で第一位を得て、翌年には大会向けクラリネット独奏作品として《影法師と操り人形の不思議な踊り》を作曲。人気を博した。2015 年の會田瑞樹との邂逅により、膨大な数のヴィブラフォン独奏のための作曲、編曲作品を発表。作品は Teeda 出版より刊行され、吹奏楽作品からアンサンブル作品まで多数手がけ、その堅実な作風に定評がある。

Twitter(現:X)アカウント <https://twitter.com/Rozhdestvensky2>

(文責：會田瑞樹)